

# 学生の主体的な学びを支えるもの

本を紹介する帯単元の検討

井 口 あずさ

## 1. はじめに

筆者は中学、高校での勤務を経て、現在大学で導入教育<sup>注1</sup>や教員養成に携わっている。大学で教える立場になって、学生の置かれた環境が高校までと大きく異なることを実感した。導入教育では、一般にクラスのメンバーや雰囲気は授業ごとに異なり、同じ授業でも毎回全てのメンバーが出席しているとは限らない。学生の各授業クラスへの帰属感<sup>感</sup>は高校ほどには高くない。また授業は、大人数で教員の話聞く講義形式が多い。講義は学生の主体的な学習を常に保証するわけではなく、受身の学習を導きやすいと言われている。学生に、正確に聞く力やノート取りの力などの基本的な言語能力や学習スキルが備わっていないかったり、基本的な生活習慣や学習習慣が身につけていなかったりすると、たちまち困難感や無力感を味わうことにもなるだろう。では、授業クラスへの帰属感が低く、受動的な学習に慣れた個々の学生が、受講生間で共にかかわり合い、積極的に主体的に学べるようにするには、授業の中でどのような学習環境を

作ればいいのか。

筆者はこのような問題意識のもと、導入教育の学習環境作りとして本を紹介する帯単元を設定して実践した。本稿ではこの帯単元の効果を検討し、学生の主体的な学びを支えるものについて考えていきたい。

## 2. 研究の背景と目的

近年大学教育改革<sup>注2</sup>が進展しており、多くの大学が導入教育に組織的に取り組み、初年次生が大学生活にスムーズに移行できるよう配慮している。溝上(2004a)によると、導入教育では、表現技能や図書館利用方法などの「大学で必要な学習スキルの獲得」、「高校の補習」、「学業への動機づけ」がなされており、特に「学業への動機づけ」は「深く学生の自己や人生に関わってくる問題」とされる。確かに自己探求、例えば、自分は何者か、何がしたいのか、何ができるのか、何になりたいのか、何のために学ぶのかといった問いと、積極的、主体的に学業に取り組むこととは決して無関係では

ないだろう。

初年次や専門の導入教育では、この動機づけを高めるように指導内容や指導方法が工夫されている。例えば溝上(2004b)は、自己探求に関する課題を設定し、グループディスカッションを通して課題を解決させ、清水(2004)は、演劇創作の表現活動を通して学習スキルやアイデンティティ形成を支援した。また安永(2004)は、理論にもとづく話し合いを通して、言語能力、満足感や学習意欲、対人関係スキルや仲間意識などが向上することを示した。このように、広く導入教育においては、(a)学習と自己、大学生生活、社会や人生との関係を視野に入れ、(b)表現活動や相互交流などの他者とのかわりを設定し、それらの活動を通して(c)言語能力を含む学習スキルや、(d)積極的、主体的な学習態度を育む取り組みがなされてきたと考えられる。受講生間で共に学び合い、活動に積極的、主体的に取り組みやすくするには、右記(b)に関する、他者とかかわりやすい学習環境作りが特に重要になるだろう。その際には、(a)に関する学習を通した自己探求や、(c)に関する基本的な言語能力の育成も意識する必要があるだろう。

本研究では、学習環境作りの方法として読み聞かせに注目した。一般に読み聞かせは大人が子どもに向けて行う。大学の専門課程の授業では、保育者養成や図書館司書養成の目的で指導される。笹倉(1999)は読み聞かせの効果として、読書への興味づけ、集中力の育成、大人の影響、文化的遺産の継承などを挙げた。さらに読み聞かせをする教師には、生徒との信頼関係作り、子ども文化の理解、子どもの理解、心の癒し、生き方の学習などの点から多くのよさが

あるとした。この読み聞かせを大学の導入教育の授業に学習活動として取り入れることで、受講生が互いにかかわりやすい雰囲気を作ると同時に、集中して聞く言語能力や態度を育み、自己を見つめ生き方を考える機会作りにもなると思われる。

一方読み聞かせは、ブックトークや朗読とともに読書指導に用いられてきた。導入教育では、学習スキルとして図書館利用や読書に慣れさせることも必要である。そのため本研究では、「好きな本を紹介する学習活動」として、読み聞かせ、ブックトーク、朗読の三種を設定した。これは本を介した間接的な自己紹介活動と考えられ、他の受講生との関係作りに役立つと思われる。受講生は、紹介する本を選びながら読書体験を振り返り、自己と向き合うことにもなるだろう。

さらにこの学習活動を、毎時の指導過程の導入に位置づけて帯単元とした。受講生が導入時の活動を通して、授業中に互いにかかわりやすくなり、他の活動にも積極的、主体的に取り組めるようになることを期待した。

以上より本研究では、大学の導入教育における学習環境作りとして、受講生が互いに好きな本を紹介する帯単元を設定し、実践を通してその効果を検討するとともに、学生の主体的な学びを支えるものを探索することを目的とする。本研究の「主体的」とは、活動に積極的に取り組み、その過程と結果を通して自ら新しいものを生み出す行動や態度とする。

### 3. 方 法

#### 3. 1. 授業の概要

実施時期・指導内容等 二〇〇八年四月〜七月に、全十五回の授業を筆者が実施した。二年次生を主な対象とした二単位の選択必修の授業であった。日本文学の専門の導入に位置づくもので、指導内容は日本児童文学概論とした。他の授業とのバランスを考慮して、講義に音読や読み書き、話し合いなどの活動を取り入れる形式にした。授業では近現代の児童文学史を時代背景とともに概観しながら、様々な議論、著名な雑誌や作家、作品を紹介した。うち三作品は授業内で読書会を実施した。本指導内容に関する検討は別稿に譲る。

目標・評価 目標はA「児童文学作品を味わう方法を理解することができる」、B「授業に積極的に参加することを通して自分の読みを広げ、深めることができる」であった。期末に特定の児童文学作品に関するレポートと、児童文学作品の読書記録（十冊以上）の提出を求めた。毎時の学習活動状況や期末課題の結果を含めて総合的に評価した。受講生 二〜四年次生十八名（男子十三名、女子五名）。児童文学に興味を持って受講した学生はわずかであり、開講時、学習意欲や学習態度には幅が見られた。受講生同士は三名のグループを除いて特別親しい関係ではなかった。また、大学の授業中に前に出て発表するのは全員が初めてであり、読み聞かせ、ブックトーク、朗読の経験も同様であった。

#### 3. 2. 帯単元の概要

##### (1) 実施方法

第四〜十三回の授業開始時に、児童文学作品か絵本の中から好きな本を紹介させた。発表は基本的に一名で行うが、複数名で組んでもよいとした。毎回一〜二名（組）、一名（組）につき三〜五分程度で計画した。発表方法は、絵本の読み聞かせ、ブックトーク、朗読のいずれかとし、他の受講生に本を見せながら紹介することとした。読み聞かせの対象を絵本としたのは、大学図書館に豊富にあり受講生がすぐ手に取って選びやすいこと、読書に慣れない受講生も取り組みやすいこと、聞き手が絵に目を向け集中して聞きやすいことにそれぞれ注目したからである。またブックトークの対象は、発表時間を考慮して一冊とした。

##### (2) 指導の概要

他者とのかわり ①発表者に、事前の家庭学習として「どのような内容をどのように伝えたいですか」「そのために発表ではどのような工夫をしますか」の質問についてそれぞれ記述させ、伝える内容と方法、聞き手を意識させた。②発表直後には、その本を選んだ理由を口頭で説明させ、発表の振り返りを記述させた。③聞き手には、自分の聞き方と発表者の発表の仕方について振り返らせ、聞いた感想を記述させた。④発表者は発表後により点を口頭でコメントし、その点を生かす方法を紹介した。⑤授業後には発表者に声かけをし、他の受講生の感想を紹介した。児童文学や絵本への興味づけ ①第一〜三回目の授業の始めに、発表者が絵本の読み聞かせ、ブックトーク、朗読それぞれの発表を実際に見せ、作品の選び方や

発表準備の例を具体的に説明した。②本の選択に当たっては図書館利用を促した。具体的には、国語の教科書教材を思い出させたり、著名な児童文学者や絵本作家、作品を紹介したり、実際に絵本や書籍を持参して見せたりし、図書館に足を運びやすいようにした。③児童文学や絵本に関する新聞記事を随時配布して、受講生が日常に関心や問題意識を持てるようにした。④授業外で発表準備の相談を受ける際には、受講生が読書体験を詳しく思い出せるように配慮した。

## 4. 結果と考察

### 4. 1. 帯単元の効果

絵本の読み聞かせを選んだのは二組と八名、ブックトークは一名、朗読は一组と一名であった。まず授業者の観察結果と受講生の反応を整理し、帯単元の効果を検討する。

(1) 受講生の聞く態度の変化：授業者の観察より

帯単元の発表の回を重ねるにつれて、一人ひとりが集中かつ継続して聞けるようになった。帯単元開始時は、話の筋を追えない受講生や、発表時間が長くなったり発表態度が恥ずかしそうであったりすると聞くのを止める受講生が見受けられたが、次第に集中して、根気強く最後まで発表者を見て傾聴できるようになった。

帯単元終了後、第十四、十五回の授業で授業者が絵本の読み聞かせをした際は、単元開始前と大きく変わり、非常に積極的、主体的に耳を傾けた。全員が絵に食い入るように集中し、ページを繰ると素直な反応を表情や態度に出すようになっていた。第十四回の授業

では、英語で書かれた絵本を試みに訳して読み聞かせたが、その後には受講生が自分から質問したり、英単語を電子辞書で調べ始めた。授業後には、別の受講生から「(自分も)絵本を訳してみたい」との思いや、授業者の訳し方について質問や意見が寄せられた。

(2) 受講生の授業後の振り返りと帯単元との関係：受講生の反応より(本文中の「」は表1の数字を表す)

第十五回の授業終了時に、出席者十三名を対象として、授業目標が達成できたか四段階で回答させ文章で説明させた。また「児童文学を扱った授業」の感想を記述させた。目標Aは十三名が、目標Bは十二名が肯定的に回答した。表1に特徴的な説明を示す。なお受講生の一部は児童文学と絵本を区別しなかった。以下、表1の、聞くことに関する記述に注目し、帯単元と授業とがどのように関係づけられているか検討する。

まず、表1の(1)(6)(13)は、授業目標に対して、帯単元の活動を記しており(傍線部参照、授業目標の達成が、帯単元の積極的な取り組みと関係づけられていることがわかる。(8b)は、直接帯単元に触れなかったが、授業の感想を「最初は正直、本を読むのも聞くのもめんどくさかったが、授業が進むにつれて、なれてきたのか、そんなに悪いものではなかった。少しは成長したかも。」と述べていることから、目標Bの記述は帯単元で得た体験を含んでいると思われる。次に、表1には聞くことの重要性(1)や、積極的に聞き発見を得ることの重要性(6)(8b)、子どもの頃と比べて見たり聞いたりして自分自身への気づきを得たこと(13)が説明されている。受講生は、積極的に聞くことを通して、新しく「伝

える力」「発見」「自分の考えが広がる」「期待感を持つ自分」が生まれたことを記したと考えられる。さらに、表1には帯単元の事前準備に積極的に取り組んで、新しい「たくわえ」「気づき」を生み出したことが記されている(6)(13)。特に(13)は準備を通して聞き手とのかかわりを強く意識していたと思われる。

以上より、受講生は帯単元で積極的、主体的に聞き合うとともに、授業では内容の理解を深め、読書会でも同様に積極的、主体的に作品解釈を深めたと推測される。このように本帯単元は、受講生間で共に学び合い、活動に積極的、主体的に取り組める学習環境を導いたと考えられ、効果があったといえるだろう。

本帯単元の方法、特に媒体として用いた児童文学や絵本は、授業全体の指導内容でもある。また受講生が選んだ本は、後述するが、子どもの頃の体験や温かい情愛を想起しやすいものであった。そのため、受講生間で受容的なかかわりやすい雰囲気生まれ、授業全体に帯単元の影響がより現れやすくなったとも考えられる。

では、導入教育において、本実践と異なる指導内容や媒体でも同様の効果を得るには、何を指針として学習環境作りに取り組めばいいのだろうか。次に、学生の主体的な学びを支えるものを探索する。

#### 4.2. 学生の主体的な学びを支えるもの

受講生は帯単元にどのように積極的、主体的に取り組んだのか、他者とのかわりに注目して受講生の反応を場面ごと整理する。場面は活動の時間に沿って、本の選択、発表の事前準備、聞き手の反応の三種とする。

(1) 発表者の事前の準備状況と聞き手の反応(本文中の「」は表2の数字を表す)

表2は、発表者が発表後に提出した事前準備の状況、本の選択理由、聞き手四名の感想である。表2の数字は発表の順番と発表者を表す。表1の同じ数字と同一人物でもある。

#### 発表者の本の選択

発表者が選んだ本は、わくわくする楽しさや家族の温かい情愛、落ち着いた優しい雰囲気を描いたものであった。本を選ぶ場は図書館だけでなく、書店(13)や家庭(4)(5)(7)などに広がった。本をきっかけに、親から子育ての話を初めて聞いた者もいたようである。発表者は、聞き手の聞きやすさや絵の見やすさ(6)、共に楽しめ共有できそうな内容(1)(3)(10)に配慮しつつ、家族の思い出や読書体験、現在の「好き」という気持ち(2)(3)(6)(8)(11)(13)、自分の願い(1)(9)に向き合って一冊を選んだ。(3)は、授業の感想を「今まで児童文学に興味なんてなかった」「児童文学は子ども向けで、そんなにおもしろくないものだと思っていたが、そんなことはなく、大人が読んでも十分楽しめる深い話もあった。自分の知らない世界を知ったような気がした。」と記述した。(3)は、授業をきっかけに児童文学に興味を持ち、発表する本選びを通して「世界を知った」新しい現在の自分に向き合い、好きな作品を探し当てた。また(1)(13)のように、現在を将来と関係づけ、新しいイメージを持つ場合もあった。このように発表者は本を選ぶとき、聞き手や家族の思いを想像し、視野を広げて共有できそうなものに注目した。また現在の自分に向

き合い、過去や将来と新しく関係づけたりしながら、伝えたいものや、聞き手や家族と共有するもののねうちに気づいたと思われる。

#### 発表者の事前準備

発表者は事前準備で、選んだ作品の特徴や魅力を自分なりに解釈し、伝えたい内容と方法を整理した。改めて読み返すことで思い出や体験を新しく意味づけたり、現在の自分をより深く見つめたりしたと思われる。(1)(6)(12)(13)は(表2傍線部参照)、伝えることだけでなく、聞き手に「〜して(感じて)もらえるように」と特定の反応を期待した。彼らは、伝えたいことがこのように伝わるだろうとイメージを持ったとも、聞き手との受容的、共感的なかわり合いを自然にイメージしたとも考えられる。

このように発表者は事前準備をするとき、伝える内容や方法、聞き手の反応を意識しながら自分に向き合い、作品を介して互いにかわり合う構えを作ったと思われる。

#### 聞き手の反応

聞き手の反応は、率直であるが概ね受容的、共感的で、発表者のよい点を新しく見つけることが多く、次の①〜④に関する記述がどの発表表に対しても見られた。①②は作品、③④は発表者に関することである。①作品の内容に引き込まれて理解を深めたり新しい感想を持ったりした。(2)の聞き手(表2傍線部参照)のように、自分の体験と関係づけて聞いた例も見られた。②作品の魅力や特徴を自分なりに観察し汲み取った。③発表者の声の大きさや語り方等の発表方法を評価し、具体的な改善方法を示した。④発表者の作品に込めた思いや、声の質や雰囲気などの発表者の個性を、作品に即して

積極的に汲み取った。(8)の聞き手(表2傍線部参照)のように、発表が上手にできなくても自分なりの評価や期待を強く示す場合もあった。

このように聞き手は、作品や発表者から多くの新しいことを積極的に汲み取るとともに、作品を介して発表者と深くかわろうとしたと考えられる。

(2) 学生の主体的な学びを支えるもの

以上のように受講生の積極的、主体的な活動の様子を、他者とのかわりに注目し、活動の時間に沿って三種の場面ごとに整理した。この結果から学生の主体的な学びを支えるものを探索的にまとめる。

発表者は好きな本を選ぶ際に、多くの人とのかわりを通して視野を広げ、自分と作品に向かい合い、過去と関係づけながら伝えたいものやそのねうちを把握していた。中には現在と将来を関係づけ、自身をより広い視野に位置づけて将来の自分のイメージを描く者もいた。また伝えたいことが聞き手に伝わることをイメージする場合もあった。実際に聞き手は受容的、共感的に聞き、新しいものを生み出しながら理解を深めた。

このことから導入教育段階では、積極的、主体的な活動を支えるのは、「他者とかかわり合いながら視野を広げて自分と学習対象に向かい合い、過去と関係づけながら、自身が伝えるに足るねうちあるものを持つていることに気づき、それを伝えられそうだという期待を持つこと」と考えられる。この一連の過程を、本研究では「自身がねうちある表現主体であると自覚すること」とまとめ、導入教育における学習環境作りの仮説的指針とする。この自覚を持つ表現者

は、積極的、主体的に他者とより深くかかわって、新しいものを生み出しながら理解を深め合うことができると思える。

## 5. おわりに

本研究は、大学の導入教育において、受講生間で共に学び合い、活動に積極的、主体的に取り組めるような学習環境作りとして、本を紹介する帯単元の効果を示した。さらに受講生の積極的、主体的な取り組みの様子から、大学生の主体的な学びを支えるものを探索し、仮説を導いた。今後は、仮説をもとに具体的な学習活動を設定し、実践を通して仮説を検討する必要がある。また導入教育だけでなく専門課程、特に教員養成の授業ではどうか、発展的に検討することも重要だろう。

注1 濱名(2004)は、「日本では、一九九七年頃から初年次教育という考え方が入ってきたが、これとは別に専門教育に対する『導入教育』という考え方は以前からあった。」と述べ、「初年次教育」と「導入教育」の概念整理が十分行われないまま併存しているとした。本稿では、「導入教育」は、初年次の大学への導入の意と、専門教育への導入の意の双方を含むものとし、後者は初年次に限定しない。

注2 溝上(2004a)は、大学教育改革は「教育システムの開発」を目指すものであるとし、その具体的取り組みを三種に整理した。すなわち、新学部・学科の設置や大学院の整備など組

織に関するもの、カリキュラムの整備など授業環境の充実に關するもの、学生による授業評価など授業・教育内容の改善・発展に関するものである。

### 引用文献

- 笹倉剛(1999)『感性を磨く「読み聞かせ」』北大路書房
- 清水豊子(2004)「自己表現とインターラクションを通した大学の学び」溝上慎一編『学生の学びを支援する大学教育』東信堂、156-183
- 濱名篤(2004)「初年次教育とリメディアル教育」大学教育学会25年史編纂委員会編『あたらしい教養教育をめざして』東信堂、217-222
- 溝上慎一(2004a)「近年の大学教育改革における学び支援プロジェクトの位置づけ」溝上慎一編『学生の学びを支援する大学教育』東信堂、20-33
- 溝上慎一(2004b)「学び支援プロジェクト(大学生活編)の実施と展開」溝上慎一編『学生の学びを支援する大学教育』東信堂、36-78
- 安永悟(2004)「対話による学習モデル」杉江修治・関田一彦・安永悟・三宅なほみ編著『大学授業を活性化する方法』玉川大学出版部、107-144

(比治山大学)

(表1)

発表者	目標A「児童文学を味わう方法を理解することができた」	目標B「授業に積極的に参加することを通して、自分の読みを広げ、深めることができた」
(1)	「ごんぎつね」や「泣いた赤鬼」など、作品の内容についてみんで考えたことが印象に残っています。自分の感想を他の人に聞いてもらったり、逆に、人の意見を聞くことで、「伝える」力がついたように思います。	読み聞かせによって自分の選んだ本について感想をもらったり、また、作品についての話し合いで、同じ作品でも色々な読み方、感じ方があると実感しました。
(6)	それぞれ思い思いの発表をすることで、十人十色の味わいが発見できました。それだけでなく、読む人によっても、作品は変わっていくものだと感じました。	実際に読み聞かせをすることで、どのような楽しみがあるか、どのような難しさがあるのかを体験できたことがよかったです。準備をする際にも、色々な本との出会いがあったので、自分の中のたくわえが増えました。
(8b)	作者には伝えたいことがあると思うので、それを感じるということが理解につながると思った。	人の話、意見を聞くことがすごく大切だと思った。それによって、自分の考えも広がっていく。
(13)	絵本を「めくる」という行為の大切さを知りました。次のページへの期待感というのは、大人になった今でも変わらずにありました。子どもの視点と大人の視点。どちらの視点でも楽しむことが出来るようになりました。	どのように読んであげたら、相手は興味を持つのか。どこが一番伝えたいメッセージなのかを事前に確認しておく、相手にも伝わりやすいのだと気づきました。

(表2)

発表者	発表に用いた本(《 》内は発表の形態) 事前準備「どのような内容をどのように伝えたいですか」 (一)内はその本を選んだ理由	発表を聞いた他の受講生の感想
(1)	「ラヴ・ユー・フォーエバー」ロバート・マンチ 《読み聞かせ》	・親子愛についての優しい印象の本で心地よかったです。・お母さん大好きなので、泣きそうになりました。良い絵本を読んで



	<p>「少し大人の児童文学」が今回のコンセプトです。私たちは今「子ども」の立場から「大人」・「親」の立場へと変化しつつあります。この絵本に描かれている、子育てをする中で母親の大変さや苦悩、そして「無償の愛」を通して、これまで自分を育ててくれた親の気持ちを理解するとともに、命のつながりや、将来の「親」としての自分を、聞き手に感じてもらえたらと思います。</p> <p>【母の日が近い】</p>	<p>・ なんだか悲しい感じの話で、せつなくもなかった。話の最初から「デュークが死んだ」ではじまる所がこの話しにひきつけられる感じになった。あと、声のトーンもよかつたし、落ち着いて読めていたと思う。・ 続きがとつても気になった。・ 区切りが上手くついていたと思いました。江國香織は大好きな作家さんなので、読んだことがあった本だけど、朗読だと少し違う印象がもてたので、また読んでみようと思います。・ 読むスピードと柔らかい感じの音が、優しく、ゆつくりと進んでいく内容に合っていると思いました。</p>
<p>(2)</p>	<p>『つめたいよるに』から「デューク」江國香織 《朗読》</p> <p>大切な犬、デュークが死んでしまった女性の前に現れる少年と一日の出来事、二人の出会いと別れ、その裏にある真実を上手く表現できればいいと思います。【高校生のとき国語の教科書で読んで印象に残った】</p>	<p>・ 発表する内容をきれいにまとめているのがよかったです。本の内容と登場キャラクターの魅力がすぐ伝わりました。・ 買って読んでみたくなる印象を受けました。・ 早口で聞き取りづらい所があったのが残念でした。紹介したいことをまとめてあったのでわかりやすかったです。読んでみたいことをまとめてあった内容で興味がわきました。紹介する前からこの本が好きなんだということが伝わってきて、聞いている方も楽しくなりました。・ 準備がよくできていて、授業に対する意欲も感じられました。子供から大人まで楽しめる作品を選ぶところが大人だなあと感じた。ブックトークをはじめ聞いて、今度自分達がやるうとしている本の参考にしたかった。</p>
<p>(3)</p>	<p>『大どろぼうホッシエンプロッツ』 オトフリート・プロイスラー 《ブックトーク》</p> <p>大泥棒ホッシエンプロッツが、カスペールのおばあさんの大切なコーヒーひきを奪ってしまい、それを取り戻すためにカスペールとゼツベルが大泥棒を追って大活躍するお話です。私はこの本のユニークさ、そして、ストーリーに引き込まれるほどの展開のおもしろさを伝えたいです。【大好きな本。子どもから大人まで楽しめる。】</p>	

<p>(4)</p> <p>『ぶたぶたくんのおかいもの』 土方久功  『二名で読み聞かせ』</p> <p>・ぶたぶたくんの心理状況が、最初から最後までどのように変わっていくかを伝えたい。例えるなら、人と二緒で、母親が子供に初めてのおつかいをさせるのと同じ。  ・ぶたぶたくんの初めてのおつかい、その過程での心の葛藤。【母親がその母親（発表者の祖母）に読んでもらった絵本】</p>	<p>・知らなかったし、おもしろかった。・役を分担して読んだら面白かったかも。絵本の絵がシユールで興味深かったです。・声が大きくてすぐくきやすかった。・ゆっくり話すところはゆっくり話しているところの工夫が良かったです。絵本の動物たちがぬいぐるみみたいでかわいいと思いました。</p>
<p>(5)</p> <p>『あおくんときいろちゃん』 レオ・レオーニ  『読み聞かせ』</p> <p>レオ・レオーニの作品のおもしろさ、作品内の色彩、単純な絵で相手に内容を想像させる。【母親に薦められた】</p>	<p>・聞きやすかったです。絵も単純で、いろいろ空想しながら読める本だと思いました。・声の大きさとトーンが良かったと思う。本の選び方というか、色がメインの絵本ってあったんだと驚きました。・声が大きくて聞き取りやすかった。はきははしてた。・前もって読んでおいたらもっとよかったです。深い話だった。スピーデーでよかったです。</p>
<p>(6)</p> <p>『まどからおくりもの』 五味太郎  『読み聞かせ』</p> <p>ほのぼのして、次はどうなるのかワクワクする内容なので、しっかり見て楽しんでもらえるようにしたいです。【小さい頃から好きな絵本。字が少ないので発表向き。】</p>	<p>・マドに穴が空いていて、そこから見える絵が予想と違ったりして楽しかった。・絵が見やすくて、声が頭に入ってきたのがよかった。・一ページごとに周りを見せていたので見やすかったです。短い文が少しずつ入っていて、絵の方に集中できるところが、絵本としてよかったですと思います。・（良かった点）右の人にも左の人にも見せるように、絵本を左右に振っていたところ。（気づいた点）「次の朝。」という所を読み落としていた。</p>
<p>(7)</p> <p>『だるまちゃんとかみなりちゃん』 加古里子  『二名で読み聞かせ』</p> <p>困っている人を助けることや、協力することの大切さを、この絵本を通じて伝えたいです。【家にあった】</p>	<p>・少し声が小さかったけど、かわりばんこに読んでいてよかったですと思う。絵がこまかくてかわいかった。「だるまちゃんとだいくちゃん」を読んだ事はあったけど、これははじめてだったので楽しめた。・よかったと思う。声が小さいかな。・絵もかわいくて、素敵な本を選んでいるなと思いました。文字が多いので聞き取りづらいところがあったのが残念でした。個性がありそうな二人なので、もっともって面白くなると思いました。・元気がな</p>

	<p>い。声が小さい。でも、本選びなどの準備はいっしょうけんめいがんばっていた。</p>
<p>(8)</p> <p>『いらっしやいませかいじゅうです』末吉暁子 《三名で朗読》</p> <p>・話は長くて途中までしか話せないけど、おもしろい所を少しでも伝えていきます(8a)。 ・かいじゅうに手紙をもらったヒデ君の嬉しそうな様子を伝えたい(8b)。 ・かいじゅうが子どもと料理が好きで、いろいろすることも紹介したいし、主人公のわがままぶりも皆さんに紹介したいですが…時間の都合上、最後までではちよつと…(8c)。「三人が好きなお本」</p>	<p>・もう少し短い作品でも良い作品があると思うので、そっちにいた方が良かったかもしれない。・三人で読み分けていたので良かったです。声を通して聞きやすかったですけれど、途切れ途切れて聞き取りづらいところが少しありました。でも、続きが気になるおもしろい本だと思いました。・話しが長かったが、声の大きさやスピードはよかったです。・長かったけど、ちゃんと準備できてたと思うし、セリフの部分は上手に読んでいたと思った。準備時間が十分でなかっただけで、多分やりたいことはたくさんあったと思うし、それも伝わって来たから失敗だったとは思わない。二回目をやるとしたら、きつと一番上手にできると思う。</p>
<p>(9)</p> <p>『もりのともだち』アンドレ・ダーハン 《読み聞かせ》</p> <p>ほんわかした森の交流を楽しく伝えたい。 【妹に読んであげる絵本】</p>	<p>・ほのほのした内容で、絵柄もあたたかく、本の選択がよかったですと思います。やさしい声で読んでいたので、聞きやすかったです。・声が小さい。かたつむりが勝ったのが納得できない。・最後に笑ったのがよかったです。絵がこまかくてキレイでよかったです。・読む姿勢がよかったです。</p>
<p>(10)</p> <p>『しきしきむらのなつ』木坂涼 《読み聞かせ》</p> <p>【夏らしい絵本】</p>	<p>・すつきりした詩のような文章で面白かったです。・早口だったけど、声が大きくて良かった。「夏・夏・夏」と連呼する場面がよかった。すごく夏らしくて力強かった。・絵がとてもきれいで見ていて楽しかった。・夏のかわりらしい絵本を選んで良かったと思います。本をもう少しよく見せてもらえたらもっと良かったと思います。声が聞き取りやすく、さわやかだったと思います。</p>

(11)	<p>『いちじくまさん』 平山英三 《読み聞かせ》</p> <p>とても短く、単語だけが繰り返されることが多いので、ゆっくりと熊の親子になりきって読みたいです。母親が子どもに物を教えるような感じで、優しく落ち着いた雰囲気を出したいです。【昔読んでもらった絵本】</p>	<p>・みじかかったけれどかわいらしかったです。子ぐまが背中ののっているのがかわいかったです。・優しい話でゆったりしていた。もうちよつと抑揚があった方がいい。・ページをめくる速度がちょうどよかった。・くまの白といちごの赤、緑の三色だけの絵がとても新鮮で良かったです。</p>
(12)	<p>『星どろぼう』 アンドレア・デイノト 《読み聞かせ》</p> <p>星がほしくなった泥棒が、星を盗みに行くお話です。最初はさわりたかっただけ、それが、自分だけの星がひとつほしくなり、今度は全ての星がほしくなり、最後には月までほしくなってしまう泥棒はどこか憎めない存在です。その泥棒と星が大好きな村人とのやり取り、村の子どもとのやり取りの、ほのほのとした感じを伝えたいです。また、アーノルド・ローベルのかわい絵、特に個性的な星の絵を見てもraitたいです。【自分が産まれる前、母親のお腹にいるときに父親が自分に読んでくれた絵本】</p>	<p>・長かったけど、ストーリーがロマンチックで面白かったです。主人公の子どもがどろぼうに優しくしていたところが、感動しました。・人物によって読み分けていたところが良かったと思います。聞き取りづらいところはありませんでした。おだやかな本の印象と、声や姿が合っていて雰囲気がありました。・声がよく通ってとても聞きやすかったです。セリフを感情をこめて読んでいる所がとても印象が良かったです。・声がクリアで聞き取りやすかったです。絵本の星もキレイで面白かったです。お父さんもなかなかロマンチストだと思いました。</p>
(13)	<p>『おとうさん』 相馬公平 《読み聞かせ》</p> <p>学生みんなに、子供の頃に戻ってもらえるように伝えることができばと思ふ。【本屋で買った。こんな父親になりたいと思った。】</p>	<p>・ゆつくりと間をおいている所が良かった。子どもが思っているありきたりなお話だけど、そこがまた深く良い内容だと思えます。・すごい堂々と発表していたのですごいと思った。声もスピードも良かったし、絵をちゃんと見せてくれるので、親切でした。・すごい上手だった。始めからちゃんとしていてよかったです。・ページごとに周りに向けて見せていた所が良かったです。小さな本でしたが、色づかいのはっきりした絵だったので、見やすかったです。</p>